

猿 橋
小学校

瑛玖良

瑛玖良校は明治期における猿橋小の旧名。切磋琢磨の意が込められている。

臨時休校を経て

校長 澁谷 一 男

二王子岳に降り積もる雪が、山肌を白く埋めていくにつれ、幾重にも伸びた尾根がくっきりと浮かび上がる。

里にもまとまった雪をもたらした厳しい寒気と共に、新型コロナウイルスの第6波もやって来た。当校の子どもにも陽性が確認され、2日間の臨時休校の措置を取った。

17日（月）午後8時、市教育委員会の指導の下、臨時休校を決定し、その旨を連絡メールで全家庭にお知らせした。その後、新発田保健所の指導の下、検査対象者となる児童を特定し、各家庭に連絡させていただいた。管理職も含め、職員が手分けをして電話を掛け、お子さんが検査の対象になったことや翌日の検査方法等について説明させていただいた。対象となる全家庭に連絡し終えたのは、午後10時30分過ぎであった。ありがたかったのは、保護者の皆様が大変冷静に話を聞いてくださったことだ。自身のお子さんが検査対象となり、陽性になるかもしれないという不安もあったであろうに、多くの方が落ち着いて事態を受け止めてくださったのである。



二日後の19日（水）、今度は検査結果をお知らせする日である。結果が出るのは午後4時以降とのことだったが、実際に保健所から「全員陰性」の連絡が来たのは、午後7時を過ぎた頃だった。そこから濃厚接触者の特定を行ったので、検査対象となった各家庭に電話を入れたのは午後8時を過ぎてからとなり、全家庭に翌日の学校再開をお知らせするメールを送信した時には、午後9時を回っていた。

お子さんが検査対象となった保護者の方々は、連絡を待っている間、気が気ではなかったろうし、それ以外の保護者の方々も、翌日学校が再開されるのか否か、一刻も早くお知りになりたかったであろう。そんな中でも、多くの保護者の皆様は、じっと我々の連絡を待っていてくださった。冷静に対応をしてくださった保護者の皆様に心から感謝申し上げたい。

電話口で「先生方も遅くまで大変ですね。」と、我々職員へのねぎらいの言葉を掛けてくださる方も大勢いらした。当校の教職員もこれまで誰も経験したことの無い事態の対応を、全職員の総力でやり切ってくれた。

2日間の臨時休校が明け、学校に子どもたちの笑顔が戻って来た。学校の主役は間違いなくこの子どもたちだ。そんな当たり前のことを今更ながらに実感する。このかけがえのない笑顔を何としても守り抜く。そう心に固く誓った。